



「医療専攻」たより

新潟県立小出高等学校 キャリア教育委員会

Vol.4 令和元年10月1日

8月5日(月)に、魚沼の最先端医療にふれ、地域完結型医療への理解を深める目的で、魚沼基幹病院を見学させていただきました。内山院長、今井看護部長、救急救命センターの桑原看護師の講義の後、事前にお問い合わせした質問事項にお答えいただきました。その後、2グループに分かれ、病院施設の見学をさせていただきました。生徒の記録から、講義・見学内容、感想を載せます。

時間	内容
13:05	講義(内山聖院長)
13:35	講義(今井看護部長)、桑原看護師、関看護師
14:00— 15:00	院内見学 1班 ・ヘリポート → 東7病棟(未使用) → リハビリ → 手術・ACU → 薬剤部 → 検査 → 放射線 → 講堂 2班 ・放射線 → 検査 → 薬剤部 → 手術・ACU → リハビリ → 東7病棟(未使用) → ヘリポート → 講堂 *手術・ACUは入口付近から見学

【講義・病院概要の説明・質問応答】

*魚沼基幹病院のコンセプト

地域全体で1つの病院という考え。南魚沼市民病院・ゆきぐに大和病院・小出病院では、日常的な医療や一、二次救急を行う。魚沼基幹病院では、高度医療や命に関わる救急医療を行う(これまでは、6台に1台の救急車が長岡へ行っていた)。

*医療連携ネットワーク「うおぬま米ネット」:どの病院でもカルテが見られる。介護施設とも連携。

*チーム医療:みんなが対等の立場で意見を出し合い、それぞれの立場をリスペクトすることが大切。

*看護師:地域の方々に信頼されるよう、暖かな看護をする。Heart(心) Head(知識) Hand(技術)

【院内見学】



始めに、基幹病院のロゴマークの意味について説明がありました。六角形の雪、育てる土と育つ木 つながりを大切にしていることを知りました。

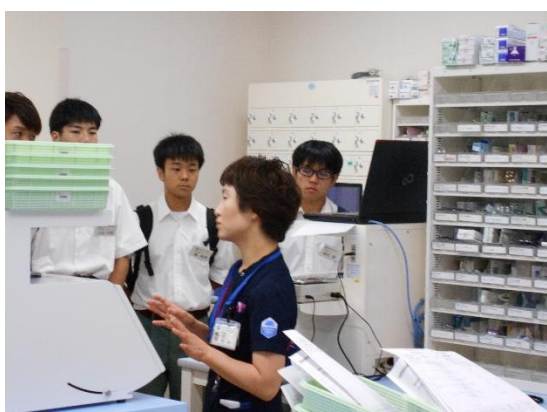


ドクターヘリの到着する屋上は坂になっていて、1秒でも早く集中治療ができるように工夫されていました。長岡まで約10分。新潟まで約20分～30分。

使っていない病室を使って、血液や痰を取るなど実習の部屋として利用し、職員の技術の向上や育成に力を入れていることがわかりました。



薬剤部では、薬の誤りを防ぐために人が2回、機械が1回の計3回も確認、より安全に患者さんに提供していることがわかりました。





階段の上り下りのリハビリをしている患者さんに対し、理学療法士の方が、優しい声をかけながらゆっくり練習されていてすごいなと思いました。



初めて手術室の前まで行きました。ACUではすごく冷静に対応、治療しているところを見ることができました。



放射線室には5つの機械があった。実際にスマホを撮って見せていただき、構造が細かいところまではっきりと写っていました

【生徒の感想】

* 看護師はとても必要とされているのに足りていないので、少しでも早く看護師になりたいと思いました。毎日患者さんと接することができるので、カッコいいと思いました。

* 今日、病院長の内山先生、今井看護部長、小出高校を卒業した看護師の桑原さんと関さんからお話を聞かせていただきました。今の魚沼には、将来を担う医療人が必要なこと、他の病院と連携したチーム医療を目標としていることが分かりました。今日は、お忙しい中、私たちのために講演や病院見学をさせていただいたので、基幹病院の方々に感謝したいです。

* 「マイネット」というのを聞いて、それは今までやってきた治療など全ての資料があるときいて、とてもびっくりしました。でも、それがあのおかげで前に行った治療などが新しい患者さんへの手助けになったりするんだらうなと思い、つながっているんだなあと思いました。

* 病院内にあるものが、テレビではなく、間近で自分の目で見られ、とても貴重な見学だった。

* 今回の体験や講演でチーム医療を行うことは、安全で安心な高度な医療を提供する上で、とても重要なことだとわかりました。

* 沢山の人の話を聞いた感想は、看護師はとても必要なのに人数が少ないから、少しでも早く看護師になりたいと思った。「毎日、患者さんと接することができる。また、少しでも正しい知識を持っていれば、病院の外でも人を救うことができる。」それを聞いたら、もっとカッコイイと思った。

* 今回、基幹病院に行って、今までの講話ではわからなかった、病院の中のことや、魚沼の病院と基幹病院の違いを院長先生や看護師さんの話を聞いてわかった。

